独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

令和2年5月21日
新しい時代の特別支援教育の
在り方に関する有識者会議

幼児教育段階の特別支援教育に関する学びの場の現状と課題

国立特別支援教育総合研究所　上席総括研究員　久保山茂樹

1．幼児期の特別支援教育の現状

幼稚園の６割強、認定こども園の８割強が私立園

	合計	国公立	私立
幼稚園	10，069	3，531	6，538
	（構成比）	（35．1%）	（64．9%）
認定こども園	5，276	742	4，534
	（構成比）	（14．1%）	（85．9%）

幼稚園は令和元年度、
認定こども園は、平成30年度学校基本調査

(参考)

・幼稚園の在園児は、国公立:15.1%、私立:84.9%

・認定こども園と保育所のみの市町村や、公立幼稚園がない市町村も存在する

支援が必要な子どもの在籍に偏りがある可能性

●「うちの幼稚園には、障害のある子どもはいません」
と言い切った園長先生

●年長児（５歳児）の秋になって
退園する（せざるを得ない）子どもがいる幼稚園
↓

●その子を受け入れる幼稚園、先生、子どもたち
→　この園では、毎年、繰り返されている

●全園児の約３割が支援が必要な子どもである園

特別支援教育体制整備状況調査（平成30年度）

●研修の機会が十分とは言えない状況

・園内研修の実施　63.6%　【公立88.4%　私立50.1%】

・外部研修への参加　72.0%　【公立94.2%　私立60.0%】

●園内体制の整備状況が低い状況

・園内委員会の設置　63.3%　【公立95.3%、私立45.7%】

・特別支援教育コーディネーターの指名　61.9%

【公立96.9%　私立42.8%】

●改善のための取組（例）

・教員免許状更新講習に「特別支援教育」を６時間

（川崎市幼稚園協会）

・発達支援コーディネーター研修（公私・保こ幼、横須賀市）

2．幼児教育の基本と特別支援教育

幼稚園は、特別支援教育の考え方を実践してきた

幼児一人一人の特性に応じた**特別支援教育は、**一人一人の幼児の姿を丁寧に見取り、適当な環境を整え、遊びを通した教育を進める**幼児教育の考えそのもの**である　（函館市立はこだて幼稚園：2015）

幼稚園教育要領　（第１章　総則　第１　幼稚園教育の基本）

３　（前略）幼児の生活経験が**それぞれ異なる**ことなどを考慮して、**幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導**を行うようにすること

基礎的環境整備としての幼稚園の保育、かかわり

●幼稚園教育要領に即した保育をしている園では

→　多様な子どもが安心して過ごせる環境、かかわり

●幼稚園教育要領以外の内容を取り入れる園の中に

→　子どもが困ってしまう環境、かかわり

・子どもの主体性よりも保育者の指示が強い

・活動を時間で区切る等一斉保育が多い

・文字や英語等「習い事」的な内容が多い

→　保育そのものに課題があるはずだが、

子どもの特性のせいにされている場合が多い

保育の質の向上と個への支援

・園では個に対応することが全てではない
・日常保育の質の向上が支援の土台

④合理的配慮

①～③基礎的環境整備

④個に応じた支援

③生活の中に埋め込まれた学び

②クラスの実態によるカリキュラムの調整

①日常保育における質の高い保育プログラム

S.R.Sandall et.al（2002,2019）Building Blocks

３．幼児期だからこそ育てたいこと
－支援が必要な子どももまわりの子どもも－

幼稚園の基本は　これなら　だいじょうぶ　＝　**安心**

- 子どもの**特性は、簡単には変わらない**かもしれない
- しかし、**まわりの人や保育を変えること**　はできる

支援が必要な子どもを基準にして

→　環境を、わかりやすく、過ごしやすいものにする

→　保育をゆるやかなものとする

・「うちの幼稚園は毎年こうしている」がない保育

・今年の、この子どもたちから始める保育

・集団に個を合わせるのではなく、個に応じる保育

障害のある子どもは、いつもみんなより がんばるのか？

ぽれぽれくらぶ著（1995）：
今どきしょうがい児の母親物語、ぶどう社

周囲の「善意」
＝「がんばれの大合唱」で
包んでいないだろうか？

保育者が手を大きくするということ

子どもたちが安心して乗ることができる手を持ちたいなと思うんです。クラスの子たちがみんな乗れるような。

手から出ていこうとする子どももいるかもしれないし、指と指の間から落っこちてしまいそうな子どももいるかもしれないでしょ。 そんな時は、こう考えるんです。

自分の手をもっと大きくすることはできないか、そして、すきまがないようにできないかってね。

子どもたちの自発的な動きを止めることはしたくないのです。でも、保育者が、自分の手を大きく、すきまのないものすればだいじょうぶでしょ。

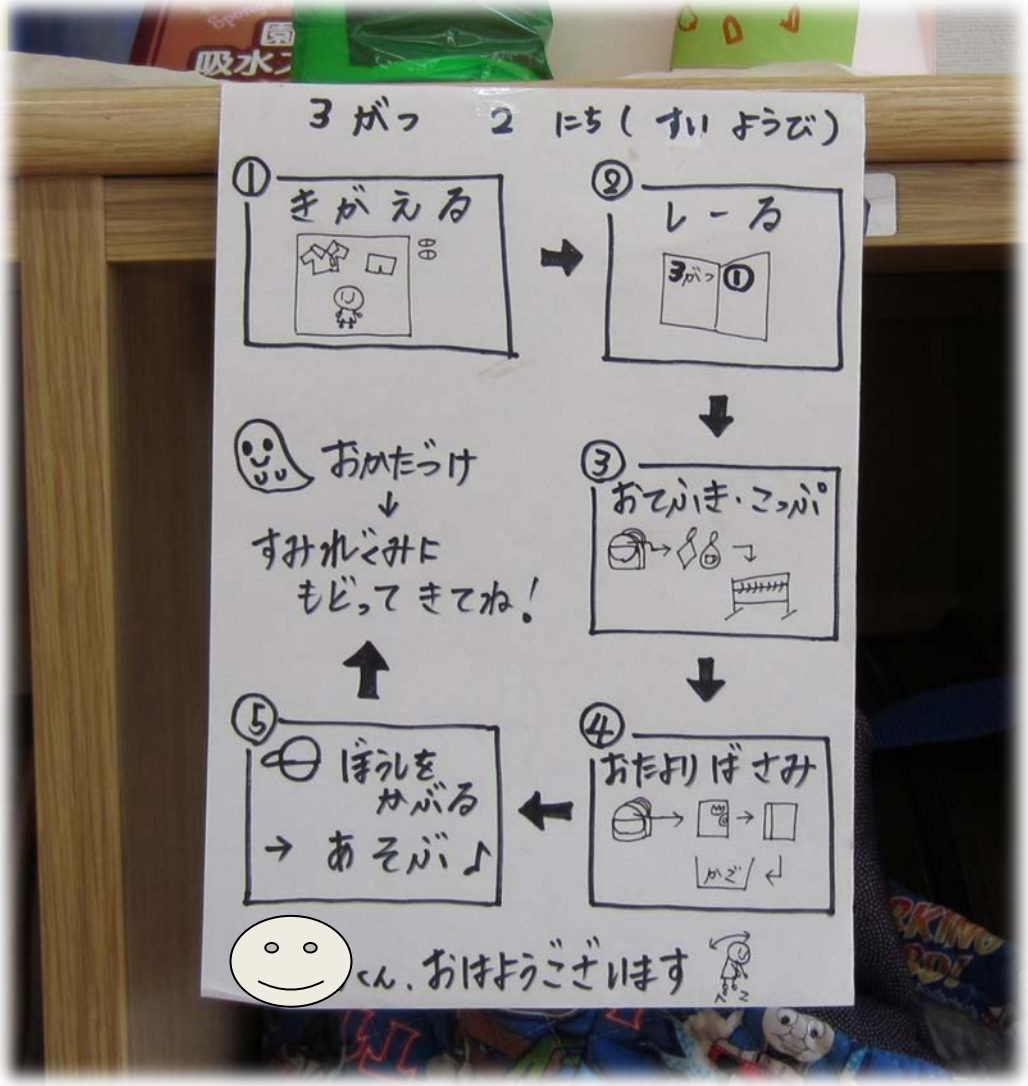
ある幼稚園の園長先生のことばから
久保山(2017)：幼児期におけるインクルーシブな教育・保育．授業づくりネットワーク25.

支援が必要な子どももまわりの子どもも育つ保育

- 得意を生かす＝幼児期から自己肯定感を育む
  できないことの改善よりも、手持ちの力で、いま、できることを認める、豊かにするかかわり
  - ・保育室内に、「○○ちゃんコーナー」を設置
  - ・保育室内に、「翼竜の展示と説明コーナー」を設置
  - ・ホールに、新幹線と「旅行会社のカウンター」を設置

- まわりの子どもが育つ＝共生社会の担い手が育つ
  - ・葛藤を経験し、自分の力で解決して育つ
  - ・保育者の姿がまわりの子どもに映り、移っていく
  - ・子ども同士の豊かな関係性が育つ

○○君の「朝の予定」　することが見えると安心！



でも、実際には、友達の姿をまねしていた・・・

ＩＣＴを活用した幼稚園からの発信例

◆武蔵野東第一・第二幼稚園（加藤篤彦園長先生より）

・Ｗｅｂ会議システムによる「クラスのあつまり」

・Ｗｅｂ会議システムによる個別懇談

・スマホアプリによるアンケートや連絡帳のやりとり

・教材を郵送。活用方法をＷｅｂで動画配信

◆札幌市立手稲中央幼稚園（氷見登弓園長先生より）

・園のホームページからの発信

・いま（今日）の園の様子、先生方の様子の紹介

・先生から子どもたちへのメッセージ・特技の動画

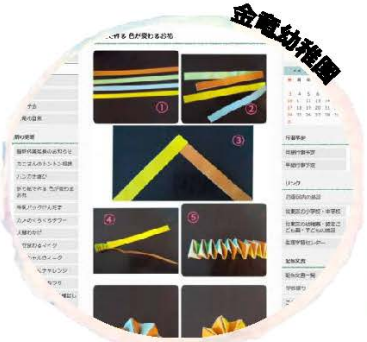
・絵本やわらべ歌、クッキング、自然等の紹介

ＩＣＴを活用した幼稚園からの発信例

園ホームページを使った情報発信

園のホームページに家庭で取り組める多種多様な遊び等のアイデアや園の生き物の様子などを掲載し、家庭での遊びの充実や、幼稚園と家庭生活のつながりの維持を図る。

金竜幼稚園



家庭で過ごすための遊びのヒント等を毎日ホームページで発信しています。

ひがしなえぼ幼稚園

自宅でも親子で楽しむことができる簡単な制作遊びや料理などをホームページで発信しています。

オンラインで同時双方向のコミュニケーション

ビデオ通話ソフト等を利用して、お話ししたり、歌を歌ったり、共同でお遊戯や簡単な製作に取り組んだりするなどして園児とオンラインでコミュニケーションを取る。

武蔵野東第一・第二幼稚園

担任と子供たちがクラスのつながりを感じることができるよう、Zoomで「クラスのあつまり」を実施し、歌を歌ったり、名前を呼んだりと、オンラインでできる簡単なコミュニケーションを実施しています。

七松幼稚園

Google for Educationを利用しており、GoogleのMeetを用いたオンライン保育を[illegible]し、お遊戯や簡単な製作などに同時[illegible]で取り組んでいます。

武蔵野東第一・第二幼稚園

[illegible]読書に役立ててもらう。

6

文部科学省初等中等教育局幼児教育課 （令和2年5月13日現在）
新型コロナウイルス感染症への対応 のための幼稚園等の取組事例集

ＩＣＴを活用した幼稚園からの発信例

あ！園庭の
桜が満開だ！
園長先生に
知らせよう！

さくらの花びらがもこもこ。沢山付いている。これは『やえざくら』だね！

きれいだな

ていぬくんも、うっとり♡

うん！

ていぬくん　『さくらのはな』
でおいしいものを作ろうか♪

ふふふ♪きれいだし、美味しいものにもなるし、桜ってすごいな。

さて、ていぬくんと園長先生、何を作るのかな？
次回、『ていぬのつぶやき』で。お楽しみに♪

札幌市立手稲中央幼稚園のWebサイト

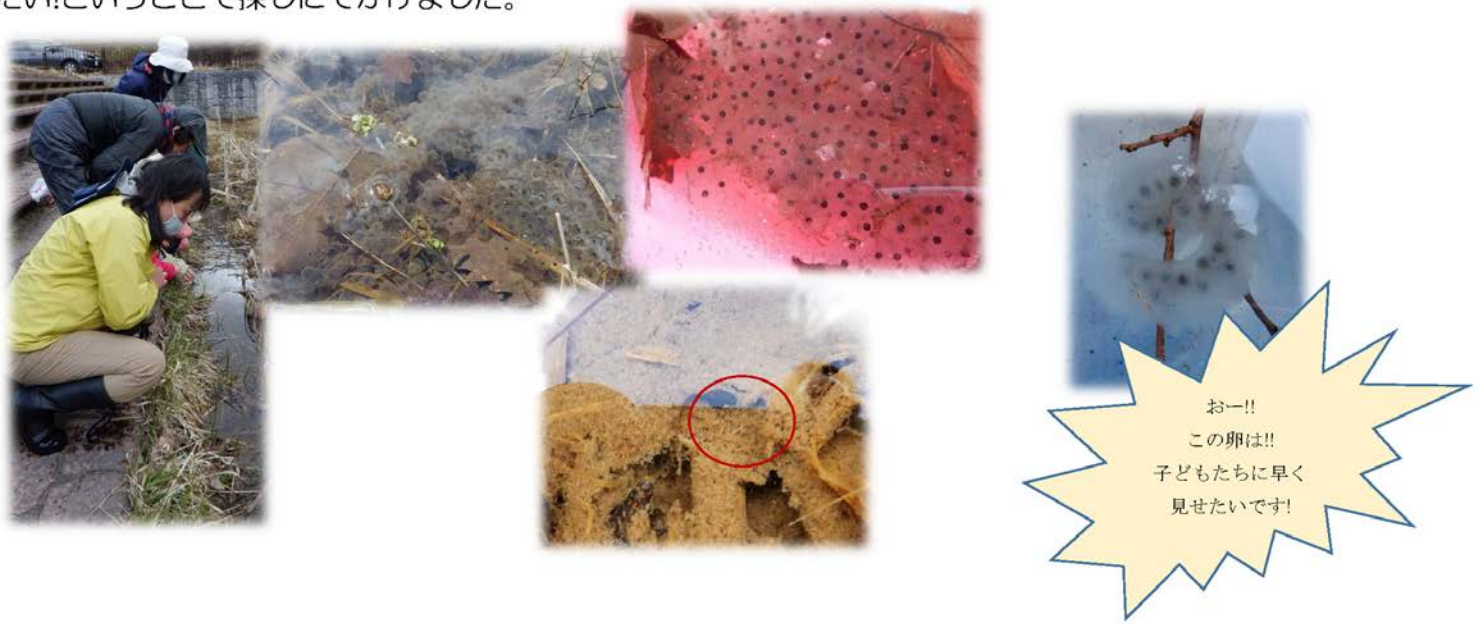
ＩＣＴを活用した幼稚園からの発信例

やってみないとわからない!心と体で感じよう!

～夢中になって遊ぶ子どもを育む環境との出会いプロジェクト!!～

【第一弾!!オタマジャクシを探そう!!　R2.4.16】

手稲中央幼稚園では、ここ数年オタマジャクシの姿を見ることが出来ず、去年などは、ボウフラを見て「オタマジャクシ!!」と言う子がいて教師も愕然…。ここはひとつ、ホンモノのオタマジャクシに出合わせたい!ということで探しにでかけました。



札幌市立手稲中央幼稚園のWebサイト

４．幼児期の特別支援教育の特色ある取組

岡山県津山市　（人口約10万人）

津山市特別支援教育推進センター

- 津山市立北小学校内に設置（平成25年度）
  - ・小学校通級指導教室（言語、ＬＤ等、４担当）と**通級指導教室幼児部**（３担当）を一体的に運用
    担当者は、保育士、幼稚園教諭（こども保育課）
- 幼児部
  - ・通級する幼児の在籍園との訪問等による連携
  - ・保護者支援、教育相談
  - ・保育所・認定こども園・幼稚園の職員への研修

島根県松江市　（人口：約20万人）

発達・教育相談支援センター『エスコ』

（松江市教育委員会が平成23年度設置）

● 乳幼児期から、就学、青年期まで切れ目ない支援

・保健福祉総合センター（母子保健の拠点）内に設置

・園、学校への訪問支援

・就学相談、保護者支援

● サポートファイル「だんだん」

・保護者が管理し、様々な機関で生涯活用するファイル

●特別支援幼児教室

・市立幼稚園・幼保園の８園に13教室設置

・３歳～就学前の幼児を対象とする通級指導教室

北海道札幌市　（人口：約197万人）

札幌市幼児教育センター（平成20年度設置）

- 各区に、市立幼稚園１園設置（＝研究実践園）
- **幼児教育支援員**を全市立幼稚園に配置
  - ・幼稚園での豊富な経験、特別支援教育の研修を受講
  - ・区内の保こ幼（含私立）の支援、保護者との教育相談
- 各区毎に、**幼保小連携推進協議会**
  - ・幼稚園・保育所・小学校連携カレンダーで日常の連携
  - ・保こ幼と小学校の職員が同じ研修（年３回）を受講
    - ①小学校から就学後の報告、②研究者等の講義
    - ③子どもの引き継ぎのための連絡会

まとめ（幼児期の特別支援教育の充実に向けて）

- 保育そのものの質の向上
  - ・全ての子どもが安心して過ごせる保育の追求
- 保育者の専門性の向上
  - ・免許状更新講習、保育士等キャリアアップ講習の活用
  - ・園長等の共生社会に向けた意識変容に向けた研修
- 幼こ保・小の連携の充実と小学校の理解
  - ・「幼児期にここまで育てる」ことを求めるだけではなく、「ここまで育った」姿をありのままに受け止める姿勢
- 教育委員会の理解とリーダーシップ
  - ・私立幼稚園、認定こども園、保育所を含めた施策